

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸 野 雅 信

二〇二三年
全国統一防火標語
お出かけは
マスク戸締め
火の用心



兵庫県功労者表彰受章者集合写真



川西市消防団安満団長代表受領

令和四年五月一八日（水）、兵庫県公館において、令和四年兵庫県功労者表彰式が挙行されました。
表彰は、二二の功労分野にわたり、二〇二名の方が受賞されました。
そのうち、消防功労では消防関係者七名が受賞され、消防功労の受章者を代表し、川西市市消防団の安満団長が齋藤知事から表彰状を授与されました。
なお、受章者の方々は次のとおりです。（敬称略）

○消防功労
川西市消防団 団長 安満 真哉
養父市消防団 団長 稲葉 広之



豊岡市豊岡消防団 団長 太田 克己
尼崎市消防団 団長 松風 俊明
前尼崎市消防局 局長 赤川 孝平
前明石市消防局 局長 上園 正人
前西宮市消防局 局長 山下 俊郎

令和四年度 兵庫県消防協会 役員一覧

総裁 兵庫県知事 齋藤 元彦
副総裁 兵庫県副知事 服部 洋平

兵庫県防災監兼危機管理部長 遠藤 英二

名誉会長 元伊丹市消防団長 岸谷 義雄
会長 芦屋市消防団長 岸野 雅信
副会長 神戸市北消防団長 採田 芳博

川西市消防団長 安満 真哉
明石市消防団長 安達 哲哉
加東市消防団長 井上 正義

姫路市姫路東消防団長 坂本 信嘉
赤穂市消防団長 吉田 清光

豊岡市城崎消防団長 椿野 仁司
丹波篠山市消防団長 田畑 幸生

淡路市消防団長 曾谷 哲也
尼崎市消防団長 松風 俊明

小野市消防団長 小林 直基
宍粟市消防団長 安原 勝則

常務理事 兵庫県消防保安課長 中道 一義

当協会の役員については、令和四年四月より服部副知事と遠藤防災監兼危機管理部長が、当協会副総裁に就任いたしました。
さらに、令和四年度定時評議員会及び令和四年度第二回理事会については、書面にて開催され、加東市消防団井上団長と豊岡市城崎消防団椿野団長の副会長就任、中道消防保安課長の常務理事就任が決議されました。
皆さま引き続き兵庫県消防協会をよろしく願います。

令和四年度定時評議員会及び令和四年度第二回理事会については、書面にて開催され、加東市消防団井上団長と豊岡市城崎消防団椿野団長の副会長就任、中道消防保安課長の常務理事就任が決議されました。
皆さま引き続き兵庫県消防協会をよろしく願います。

令和四年 春の叙勲 (消防関係) 13名が受章

令和四年春の叙勲が四月二十九日に発令されました。

叙勲の受章者(消防関係)は、全国で六二二名、うち兵庫県では、本消防吏員・元消防団員併せて一三名が叙勲の栄に浴されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、幾多の災害に対して、率先して敢然と立ち向かわれ、地域の安全・安心の確保に尽力されました。また、消防力の強化、充実に努めるとともに、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されたこと等、これまでに抜群の功績により、その栄誉に輝かれました。

今回の叙勲の伝達式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となりました。

なお、全国の消防関係受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。
(敬称略)

(全国消防関係受章者数)

瑞宝小綬章 三五名
旭日双光章 五名
瑞宝双光章 九〇名
瑞宝単光章 四九二名
計 六二二名

兵庫県下受章者(消防関係)

◎瑞宝小綬章

元加古川市

消防正監

長谷川美義

元明石市

消防正監

梅本 敏明

元北はりま消防組合

消防正監

藤本 喜一

◎瑞宝双光章

元神戸市灘消防団

団長

白井 幸治

元姫路市飾磨消防団

団長

桑名 秀信

◎瑞宝単光章

元三田市消防団

副団長

藤田 忠成

元伊丹市消防団

副団長

堅田 隆雄

元高砂市消防団

副分団長

八田 克美



元芦屋市消防団 副分団長 小阪 務
元淡路市消防団 副団長 原 一平
元豊岡市出石消防団 副団長 松嶋 義則
元尼崎市消防団 副団長 西村至言男
元朝来市消防団 副団長 吉野比呂志

令和四年 春の褒章

令和四年四月二十九日に発令

消防団員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく貢献した方へ授与される藍綬褒章に神戸市東灘消防団の池田徹団長と神戸市灘消防団の今井進団長が受章の栄誉に輝きました。

今回の叙勲の伝達式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となりました。

(敬称略)

(全国消防関係受章者数)

紅綬褒章 六名
黄綬褒章 七名
藍綬褒章 九七名
計 一一〇名

兵庫県下受章者(消防功績)

◎藍綬褒章

現神戸市東灘消防団

団長

池田 徹

現神戸市灘消防団

団長

今井 進

なんだ？

兵庫県

自然災害と感染症との
複合災害への
備え

感染拡大を予防するための
働き方
【ワークスタイル】

感染拡大を予防するための
日常生活
【ライフスタイル】

各場面の
行動スタイル

買い物

- ☐ 通販、電子決済の利用
- ☐ 商品への接触は避ける
- ☐ レジに並ぶときは、前後にスペース
- ☐ 計測を立て、1人又は少人数ですいた時間に早く済ませる

電車・バスの利用

- ☐ 乗降は控える
- ☐ 混んでいる時間帯を避ける
- ☐ 徒歩や自転車も併用する

食事

- ☐ 持ち帰りや出前、デリバリーも利用
- ☐ お酌、グラスやお口の触れは避ける
- ☐ 列面ではなく、横並びで食べる
- ☐ 食後は控える
- ☐ 大皿は避け、料理は個々に
- ☐ 食後、飲み後は感染防止策を十分に

娯楽・スポーツ等

- ☐ 公園はすいている時間、場所を選ぶ
- ☐ 筋トレやヨガは自宅や動画を活用
- ☐ ジョギングは少人数で
- ☐ すれ違うときは距離をとる
- ☐ 予約制を利用する
- ☐ 数や定数は、十分な距離の確保がオンラインで

イベント等

- ☐ 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない
- ☐ 接触確認アプリ・追跡システムの利用を

(1) 密閉 密集 密接
「3密」の回避

(2) 身体的距離(ソーシャルディスタンス)の確保
できるだけ2m、最低1m。

(3) マスクの着用、咳エチケットの徹底

(4) 手洗い・手指消毒
手洗いは30秒程度。石けん・消毒薬の利用

(5) 体温測定・健康チェック

熱や風邪の症状がある時は自宅で療養

(6) 発症時やクラスター発生時に備え、

いつ誰と
どこで
会ったかを
記録

- ☐ 在宅勤務(テレワーク)、ローテーション勤務、時差出勤の推進
- ☐ 会議はオンラインで
- ☐ 対面での打合せは換気とマスクを
- ☐ 発熱など体調不良の従業員の出勤を停止
- ☐ 職場での「3密」の防止

■「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営ガイドライン」の活用
■複合災害に備えるための事前準備
・自然災害と感染症との「複合災害」に備え、避難場所・避難所の確認や
避難所での対応等について、事前に準備
・避難判断にあたっては、「マイ避難カード」や「ひょうこ防災ネット」アプリを活用

ひょうごスタイル

って、

兵庫の新たな生活様式「ひょうごスタイル」を取り入れ、
新型コロナウイルス感染拡大予防にご協力をお願いします。

第三八回危険業務従事者叙勲が 令和四年四月二九日に発令

22名の兵庫県下元消防職員の皆様が消防功労関係で受章

勲の榮に浴された方々は、消防職員として国民の命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたる著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。今回の叙勲の伝達式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となりました。

なお、全国の消防関係受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。

(敬称略)

(全国消防関係受章者数)

瑞宝双光章	三一八名
瑞宝単光章	三二三名
計	六三一名

兵庫県下受章者(消防功労)

◎瑞宝双光章

元神戸市 消防正監	今村 明
-----------	------

元神戸市 消防監	西村 康男
----------	-------

元神戸市 消防監	熊田 晃久
----------	-------

元尼崎市 消防監	早川 一隆
----------	-------

元高砂市 消防司令長	田付 昌也
------------	-------

元宝塚市 消防監	植村 富一
----------	-------

元明石市 消防監	馬本 雅之
----------	-------

元明石市 消防司令長	池内 泰典
------------	-------

元姫路市 消防監	犬賀 武敏
----------	-------

元姫路市 消防司令長	浅見 正
------------	------



◎瑞宝単光章

元神戸市 消防司令長	覺前 知廣
------------	-------

元芦屋市 消防司令長	向堂 晋治
------------	-------

元西宮市 消防司令長	西岡 克美
------------	-------

元加古川市 消防司令長	松下 良史
-------------	-------

元小野市 消防司令	柴田 好郎
-----------	-------

元篠山市 消防司令	雪岡 達也
-----------	-------

令和四年

安全功労者 内閣総理大臣表彰

安全功労者内閣総理大臣表彰は、毎年七月一日を「国民安全の日」とし、「国民の一人ひとりがその生活のあらゆる面において、施設や行動の安全について反省を加え、その安全確保に留意し、これを習慣化する気運を高め、産業災害、交通事故、火災等国民の日常生活の安全を脅かす災害の発生の防止を図る」という趣旨に基づき、行われている表彰です。

授賞式については、七月一日に総務大臣官邸大ホールにて執り行われました。

なお、全国の受章者は次のとおりです。

(敬称略)

安全功労者内閣総理大臣表彰(消防関係受章者数)

(個人の部)	三名
(団体の部)	三団体

兵庫県下受章者

○団体の部	日東化成株式会社 尼崎工場
-------	---------------



令和四年度

安全功労者・消防功労者 総務大臣表彰

安全功労者総務大臣表彰は、「安全思想の普及徹底又は安全水準の向上のため、各種安全運動、安全のための研究、もしくは教育又は災害の発生の防止もしくは被害の軽減に尽力し、又は貢献した方々の士気高揚を図る」という目的で、消防職団員以外の個人・団体を受賞対象とし、行っている表彰です。

授賞式については、七月二日東京霞が関の合同庁舎二号館地下二階講堂にて執り行われました。

なお、全国の受章者は次のとおりです。

(全国受章者数)

安全功労者表彰(個人)

(個人)	一六名
(団体)	一二団体

消防功労者表彰

消防団員	二名
女性(婦人)防火クラブ員	五名

兵庫県下受章者

○安全功労者総務大臣表彰(団体)	関西熱化学株式会社 尼崎事業所
	城南婦人防火クラブ
	横尾防災福祉コミュニティ

フェニックス共済 のご案内

「安心」をカタチに 兵庫県住宅再建共済制度 フェニックス共済

自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」

★兵庫県が実施する共助のしくみ!

加入戸数
171,769 戸
令和 3 年 1 月末現在

給付金総額
6億 9,290 万円
令和 3 年 1 月末現在

地震・台風・水害・
雪害の被害による
住宅再建に給付
しています。



今後、もしも!!

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30 年以内の発生確率 最大 80%!
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5 万棟!

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

今、「備え」をカタチに! フェニックス共済

住宅再建共済

掛金 年額 5,000 円

住宅の損害割合 20% 以上の被害で

◎建築・購入した場合 ▶ 最大 600 万円給付!

◎補修した場合 ▶ 最大 200 万円給付!

小さな負担で、
再建の大きな力になります



お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター 078-362-9400 (平日 9:00~17:00)

フェニックス共済 検索

加入申込書はダウンロードできます



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局(簡易郵便局除く)にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です!



中道事務局長挨拶



中道事務局長より
「マイ避難カード」作成について説明



奥見兵庫県防災支援課長による
フェニックス共済説明



NPO法人MAMA-PLUG宮丸みゆき先生による講演



宮丸先生による「子育て世代への防災講座」

この度の研修会は、マイ避難カード作成動画の視聴と説明と、NPO法人MAMA-PLUGの宮丸みゆき先生による講演を実施しました。

まずマイ避難カードとは、災害の危険が迫っている時に、「いつ」「どこで」「どのように」避難するか予め自分で確認、点検し、書き記しておく、自宅内の普段から目につく場所に掲出しておくなど、いざというときの避難行動に役立てるためのカードです。このマイ避難カード作成動画は、兵庫県が県民向けに作成した動画で、当協会の中道事務局長より、この作成について説明を行いました。動画についてはYouTubeにてどなたでも視聴していただけますので是非ご覧ください。

※「マイ避難カードをつくろう！」
(外部サイトヘリンク)

<https://www.youtube.com/watch?v=Gp3mvhIfotA>



※フェニックス共済（兵庫県住宅
再建共済制度）について

<https://www.jutakusaiken.jp/>



マイ避難カード作成動画の視聴後は、兵庫県危機管理部防災支援課奥見課長によりフェニックス共済（兵庫県住宅再建共済制度）の説明をいただきました。

皆さま、フェニックス共済についても、ご協力よろしく申し上げます。

この度の講演内容は、女性消防団員の活動の一つである、市民への防災指導の際に役立てていただきたいとの考えから企画しました。今後の活動内容、市民への伝え方のヒントになればと思います。

今後も、女性消防団員の皆さまの活動に役立てられるような研修会を企画したいと考えています。ご興味がある内容、お話を聞いてみたい講師など、希望がありましたら是非当協会事務局までご連絡をお願いいたします。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着けば、また以前のように交流も踏まえた研修会を実施できればと考えています。

NPO法人MAMA-PLUGの宮丸みゆき先生からは、「子育て世代への防災講座」という演題でご講演いただきました。

宮丸先生は、ご自身の被災体験（東日本大震災）を交え、その体験により必要だと感じたこと、女性や子供の目線、ママ目線を大切にしたい、コンパクトで分かりやすい防災を伝えてくださいました。研修参加者からは非常に好評であり、「防災は生活の一部であること、災害時にストレスを感じにくいよう、いつもの自分らしく日常生活を送ることができるよう、準備しておくことを意識できた。」「早速防災ポーチを用意したい」との声がありました。

最後に考えています。最後の研修会へ参加して下さった女性消防団員の皆さま、そして各事務局の皆さま、暑い中お集まりいただき、ありがとうございました。

本研修会へご参加くださった消防団は以下のとおり。

- ・神戸市灘消防団
- ・神戸市北消防団
- ・神戸市垂水消防団
- ・姫路市姫路西消防団
- ・洲本市消防団
- ・芦屋市消防団
- ・伊丹市消防団
- ・豊岡市日高消防団
- ・加古川市消防団
- ・宝塚市消防団
- ・三木市消防団
- ・川西市消防団
- ・小野市消防団
- ・三田市消防団
- ・丹波篠山市消防団
- ・南あわじ市消防団
- ・朝来市消防団
- ・淡路市消防団
- ・猪名川町消防団

以上一九消防団（参加者五
三名）※各市町引率職員含む



令和四年度兵庫県女性消防団員技術研修会

公益財団法人兵庫県消防協会



『地域の防火防災力の向上を進めます』

加古川市消防団

加古川市は、県南部の播磨灘に面し、播磨平野を貫流する県下最大の河川「加古川」

河口に広がる豊かな自然に囲まれた地域です。沿岸部は、製鉄所を中心に石油コンビナートの重工業地帯が広がり、播磨臨海工業地帯の一翼を担っています。一方、内陸部では、伝統を生かした靴下や毛織物など特色のある地場産業が営まれています。

加古川市消防団は、現在、女性分団、企業連携消防団員を含め一団本部、一九分団で構成され、定数一、二〇〇名

また、各分団では、それぞれの担当地域の特性に応じた各種訓練の実施や地域行事へ参加協力し、住民との連携を図っています。

しかし、令和二年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、消防団活動の自粛、行事の中止・縮小を余儀なくされ、思うような活動ができておりませんが、そのよう

な状況においても、感染防止を徹底し、活動を継続しています。

このような中、令和四年度から、「加古川市学生消防団



出初め式でののはしご乗り演技



水防訓練



礼式訓練

『ひとまち守る福咲きの消防団』

福崎町消防団

福崎町は、昭和三十一年五月三日、田原村、八千種村、旧福崎町の一町二村が合併して誕生しました。古くから交通の要衝として栄え、周囲を緑の山にかこまれ、中央部を清流市川が流れています。気候は比較的安定しており、雨の少ない地域であったため、ため池を多く有しています。日本民俗学の開拓者、柳田國男生誕の地であり、遠野物語から発想を得て妖怪による町おこしをしています。

【団の構成】

福崎町消防団は、一団本部三

活動認証制度」を導入し、大学生等若年層の入団促進を図るとともに、消防団員の年額報酬・出勤報酬の額を見直し、処遇を改善することで消防団の活性化を図っています。

今後は、地域の防火防災力の向上のため、常備消防との連携はもちろんのこと、自主防災組織、地域住民との連携を図り、消防団が地域の核となり災害に強いまちづくりを展開し、今以上に地域に密着し、地域の特性に応じた消防団活動を推進していきます。

支部三三分団で構成されてい

ます。人口二万人弱、面積四五・七九平方キロメートルの小さい町ですが、女性消防団員を含めた団員数は六〇〇名、平均年齢は三二・七歳と高い人口比率かつ若い団員で構成されています。また、平日昼間の火災発生時における初期消火及び消防団員への支援に従事する機能別消防団員は二五名で構成されています。車両は各分団の小型動力ポンプ積載車三二台、指揮車二台を配備し、分団間連絡用のデジタル簡易無線機を各分団二台と本団、本町連絡用無線機の二系統を装備しています。

【消防操法大会】

消防団員の消防技術及び士気向上を図ることを目的とし、火災現場における行動の基礎であり、日頃の訓練の成果を発揮する場として、毎年、五月に操法大会を実施しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、三年の間、大会の中止を余儀なくされました。技術の維持向上に加えて、訓練の場で培っていた団員とのコミュニケーションの不足も各分団間では課題となっています。

【中継訓練・非常呼集訓練】

有事が発生した際に、迅速・適正に統制の取れた消火活動を行うことを目的に、福崎町では年二回、各支部、七〇三分団に分かれ、自然水利からの長距離送水訓練を実施しています。分団単独で行う普段の点検や操法訓練では行えない分団間の中継送水時の送水圧管理や、無線連絡を



福崎町消防団消防操法大会の様子



小学校合同防災訓練での放水体験の様子

町内の各エリアにおいて計画立案し実施しています。

【小学生消防団見学・小学校合同防災訓練】

町内小学校と消防団が連携し、児童を消防団ポンプ庫に招き消防団見学を実施しています。また、合同防災訓練として実践的放水訓練を実施し見学してもらうなど、消防団の役割や意義、体験談の説明、

車両や資機材に触れてもらう、放水体験など未来の消防団への加入促進を実施しています。団員にとってみても消防団員として地域の子どもたちに触れる機会は、『地域に貢献している』実感を得られる場としてとても重要と考えています。

【最後に】

福崎町は三〇年以上にわた

り消防団員数六〇〇名を維持しています。それは、集落の数だけ分団が有り、『我が村は自分たちで守る』という主体的な郷土愛に基づくものです。近年は働き方が多様となり、団員の確保や訓練、消防団活動も困難になりつつあります。風水害についても比較的小さい地域でもあるので、いかにして消防団活動が『我が事』であるかを理解し、理解してもらうことが重要です。消防団という枠に囚われず、若い世代における郷土愛の醸成に注力していきたいと考えています。



われら若手消防団員

～共助の精神から地域の安全へ～



消防団員 山口 昂人

私は洲本市消防団 外町分団に所属しています。外町分団の団員数は十数名と非常に少人数です。どの地域も団員数減少の傾向にあります。当分団も歯止めがかからない状況です。

団員数の減少は、人口減少、社会構造やライフスタイルの変化に加え、コロナウイルスによる不安定な経済状況が影響していると考えます。ご近所のつながりが希薄化し、地域活動に参加するというのがハードルが高くなっているのも一因です。しかし、団員数減少の最大の原因は消防団自体のイメージだと感じています。

災害が多発化・激甚化し、全国的に出勤回数が増えていることから、団員一人ひとりの負担が増加していることは周知の事実です。また消防防災活動以外でも地域行事等の参加が求められます。入団すると時間、場所、人に縛られる印象があるため、友人に入団を勧めても首を縦に振ってもらえません。

私も入団当初は、操法大会に向けた訓練など活動全般を負担に感じていました。ただ、今は違います。団員数が少なくとも有事の際に組織が機能するよう、分団長がナレッジのDB化、情報伝達の自動化等でレギュレーションを整備してくださっているの、負担は軽減しています。強制されることなく、可能な範囲で自主的に地域貢献できる消防団・当分団の共助の精神に共感しています。今後も継続して地域を守るように精一杯努力します。

わが町の団長さん

「いざ消防団改革へ」

加西市消防団

深田 哲也



加西市は、兵庫県の南西部に位置する人口約四三、〇〇〇人の町で、加西市消防団は総団員数一、二二七名が消防団活動に従事しており、今年度から深田団長が新たに消防団の陣頭指揮を執られていきます。

深田団長は、昭和五六年の入団後、通算三十六年の長きにわたり消防活動に従事され、分団長、副団長を歴任後、加

西市消防団の陣頭指揮を担い、多くの現場経験を積まれてきました。

火災の一報が入れば、だれよりも早く現場に駆け付け、「火災現場に深田あり」とその参集率は消防職員も驚くほどで、常に災害現場の第一線でご活躍されています。

深田団長の基本理念は、「訓練は厳しくとも、平時は楽しく、上下関係なくなんでも話し合える、風通しのよい組織づくり」を心掛けておられ、自然体で飾らない人柄から人望も厚く、団員達から大変慕われています。

また、訓練による長時間の拘束や、家庭や本業に支障を来している等の意見で問題となっていたポンプ操法大会、礼式大会について、負担に感じる団員らの声に真摯に向き合われ、この二行事を廃止し、より実践的な訓練に置き換えるご決断をされるなど、常に

現場の声に寄り添われ、消防団活動の改善にご尽力されています。

深田団長は「楽しくやりがいの感じる消防団づくり」「地域防災の要として、加西市住民が安心して生活が出来る消防団づくり」を使命に全力で取り組みたいと意気込まれており、今後のご活躍に期待が高まります。

「宇野団長を中心に」

新温泉町消防団

宇野 正宏



兵庫県の最北西部に位置する新温泉町は、町名にもあるように温泉が複数地域で湧き出し、銭湯や旅館だけでなく、一般家庭にも温泉が配湯されています。海に面している浜坂地域、山間にある温泉地域の大きく二つの地域で分れており、このような地域性のため住宅火災のほか林野火災も発生しやすく、不測の事態に備え、消防団は常に消火訓練等を積み重ねています。

新温泉町消防団は、平成一七年一〇月一日、二町合併により旧浜坂町消防団、旧温泉町消防団が統合して発足しました。現在二一分団、六七八名の団員で地域住民の生命・財産を守ることを使命として

活動しています。

宇野団長は昭和五五年に旧浜坂町消防団入団し、様々な水災に出動して活躍されました。平成二二年から副団長を務め、令和四年四月一日から第二代新温泉町消防団長に就任しました。

入団当初から消防団活動に對し熱心に取り組み、団員の確保や指導にも尽力されています。また謹厳実直な人柄で、団員はもとより地域住民からも信頼されています。新温泉町防犯協会の会長も務めておられ、地域住民の安心・安全

のために多忙な毎日をごしておられます。

昨今では新人団員の減少や団員の高齢化など問題も出てきていますが、頼りになる宇野団長を中心に、これからも町を火災や災害から守っていきます。

がんばってます、女性消防団員

女性目線で

小野市の安全・安心を守ります

小野市消防団女性分団 佐藤 緑会

小野市消防団女性分団は、平成一三年に播州地方ではじめて結成された女性による消防団で、小野市の市花ひまわりにちなみ「サンフラワーズ一九」の愛称で活動しております。

私たちの活動は、AEDの使い方や心肺蘇生法の指導(救急救室?)をはじめ、高齢者宅への防火訪問、また火災予防運動の際に行われる各種イベントでの防火広報活動などを行っています。さらに平成二八年から新たな取り組みとして、避難所運営研修(HUG)を開始。

この研修では、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかをゲーム感覚で模擬体験し、災害時要援護者への配慮や部屋割り、炊き出し場所、仮設トイレの配置など、生活空間の確保をどうするのかを話し合いながら、避難所の運営を学ぶ研修を市民の方へ指導しています。

災害発生時に知識を活かし、行動に移せるようになるには、普段から



結成22年目を迎えた女性分団サンフラワーズ119

個々の意識や日常生活に防災を取り入れていくことが必要です。今後も、市民一人ひとりに防災を身近なものとして捉えていただくよう、女性ならではのきめ細かな視点で考え、工夫しながら普及啓発活動に取り組んでいきます。そして、市民一人ひとりの自主防災レベルを向上させ、まち全体の防災力を高めていきたいです。

編集後記

厳しい暑さが続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今月号では一面から三面に、各種表彰を受章された方々を掲載しております。受章された皆様おめでとうございます。

また、当協会の役員一覧も掲載させていただいておりますのでご覧ください。

最後に、今月号も紙面作成にあたり、各地区から多数の寄稿をいただき、ご協力いただきました。誠にありがとうございます。

熱中症をはじめ、大雨・台風など、何かと気がかりな季節となりました。また新型コロナウイルス感染症の感染者も増大しております。災害への備え・体調管理には気を付け、暑い夏を乗り切りましょう！

こまめに水分をとろう

